（様式 3－②）

2016（平成 28）年度
北陸大学教育改革助成報告書

代　表　者　名	所　属	職　位	交　付　金　額
高寺　恒雄　　印	薬学部薬学基礎教育センター	教授	1,200,000　円

分担者	所属	職位	分担者	所属	職位
別紙に記載					

課題名	大学生の学習観と批判的思考態度の調査

１．事業の概要（800 字以上（1500 字以内）で記入してください。）

本研究では、学生が能動的学修習慣を身につけ、学修時間の実質的な増加を促す教育方法の基礎資料とするために、学生の認知主義的学習観と批判的思考態度（考える力）を調査し、相互の関連を調べるとともに、学業成績との関連も調べ、授業改善などにつなげることを目的とした。

学習観の調査項目は市川らによって作成された尺度を用いた。「失敗に対する柔軟性」「思考過程の重視」「方略志向」「意味理解志向」の 4 側面に関して各 6 項目について 5 段階の自己評定により大学(薬学部）1～4 年次生対象に回答を求めた。批判的思考態度の調査項目は平山らによって作成された尺度を用いた。「論理的思考への自覚」「探究心」「客観性」「証拠の重視」の 4 因子で構成された計 33 項目からなり、5 段階の自己評定により大学(薬学部）1～4 年次生対象に回答を求めた。学業成績については各学年前期の成績（累積 GPA）を解析に用いた。さらに、因果関係モデルの検証を共分散構造解析によって行った。

調査は日本教育心理学会倫理綱領の規定に従った。

１．学習観と前期 GPA との相関

１年次生では「失敗に対する柔軟性」「思考過程の重視」「方略志向」「意味理解志向」のうち「意味理解志向」のみに GPA との有意な相関があった。2 年次生および 3 年次生では「失敗に対する柔軟性」「思考過程の重視」「方略志向」「意味理解志向」のいずれに対しても GPA との有意な相関が認められた。４年次生では「失敗に対する柔軟性」を除き GPA との有意な相関があった。

２．批判的思考態度と前期 GPA との相関

１年次生では「論理的思考への自覚」「探究心」「客観性」「証拠の重視」いずれの因子とも GPA との相関はなかった。2 年次生では「論理的思考への自覚」「客観性」に対して、3 年次生および 4 年次生では「論理的思考への自覚」「探究心」に対して有意な相関が認められた。

３．学習観、批判的思考態度、GPA の相互関係

因果関係のモデルを共分散構造分析により検証を行ったところ、学習観は直接的に成績（GPA）に影響するのに対し、批判的思考態度は学習観を介して間接的に成績（GPA）に影響している可能性が考えられた。

以上のように、学習観や批判的思考態度は学業成績に少なからず影響を及ぼす。個人の学習観や批判的思考態度は短期間に育成できるとは限らないが、認知主義的学習観や批判的思考態度を反映する授業設計と成績評価をすることで、学生の主体的な学修の確立を支援できるものと考えられる。

２．キーワード

(1) 学習観尺度　(2) 批判的思考態度尺度　(3) GPA

(4) 共分散構造分析　(5)　(6)

（様式 3－②）

３．取組みによって得られた教育効果等（得られた効果、今後期待できる教育効果等について、詳しく具体的に記載してください。）
学士課程における課題の一つとして、「知識や技能を活用して複雑な事柄を問題として理解し、答えのない問題に解を見出していくための批判的、合理的思考力をはじめとする認知的能力の育成」が挙げられている。さらに、学生の主体的な学修の確立のために、教員と学生あるいは学生同士のコミュニケーションを取り入れた授業方法の工夫などが求められている。 今回の調査によって、学習が成立するしくみを考える学習観（認知主義的学習観）と学業成績とは相関した。批判的思考は、将来主体的に問題を発見し、解を見いだしていくための能力として重要であり、その批判的思考態度は前述の学習観と相関した。 学生が自らの学習観を非認知主義的なもの（丸暗記志向など）から認知主義的なもの（意味理解志向など）へ修正することは容易ではない。しかしながら、認知主義的学習観や批判的思考態度を反映する授業設計を行い、それに対応した成績評価にすることで、学生の主体的な学修の確立を支援できるものと考えられる。 学生同士のコミュニケーションを取り入れた授業方法として、課題文の予習を前提とした個人学習と、グループ学習からなる LTD 話し合い学習法が安永氏によって提唱されており、認知主義的学習観や批判的思考態度の育成に寄与する可能性がある。今回の研究においても授業の一部に採用して、振り返りアンケートで学生の反応を確認した。授業設計において LTD 話し合い学習法の手法を取り入れることが、学生の主体的な学修の確立を支援する一つの方法と考えられる。 参考資料 １．市川伸一　1996　学習と教育の心理学、岩波書店 ２．平山るみ、楠見孝 2004　批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響　教育心理学研究 52, 186-198 ３．新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（答申）（平成 24 年 8 月 28 日中央教育審議会）

［備考］１．各記入欄とも、スペースに限りがあるので、必要に応じて適宜コピーしてください。
２．外国語のものについては、日本語訳を付けてください。

別紙

分担者　氏名	所属	職位
荒川　靖	薬学基礎教育センター	教授
一ノ木　進	薬学基礎教育センター	教授
今井　弘康	薬学基礎教育センター	教授
落合　俊朗	薬学基礎教育センター	講師
加藤　幸子	薬学基礎教育センター	講師
亀井　敬	生体環境薬学講座	講師
木藤　聡一	薬学基礎教育センター	講師
武本　眞清	薬学基礎教育センター	講師
藤本　和宏	薬学基礎教育センター	講師
定成　秀貴	薬学基礎教育センター	講師